

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
保健医療学部 理学療法学科	5人	3人	2人	2人	12人	9人	10人	0人	42人	21.3人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	5人	3人	2人	2人	12人	9人	10人	0人	42人	—	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている	3
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である	2
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
☐	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
☐	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
☐	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤	大学入門セミナー	15	谷埜予士次・鈴木俊明・ 谷万喜子・米田浩久・ 吉田隆紀・中尾哲也・ 文野住文・東藤真理奈・ 福本悠樹・鬼形周恵子・ 本田陽亮	教授（専任）・教授（専任）・ 教授（兼任）・教授（専任）・ 教授（専任）・准教授（専任）・ 准教授（専任）・講師（専任）・ 講師（専任）・助教（専任）・ 助教（専任）
		科学の基礎	15	井本泰彦・山崎尚	非常勤講師
		生命のしくみ	15	青野由紀	非常勤講師
		生命の化学	15	岩橋秀夫	非常勤講師
		統計学の基礎	15	戸村多郎	教授（兼任）
		物質と自然のしくみ	15	中村正信	非常勤講師
		情報科学Ⅰ	8	櫻井理紗・岸本和昌	全て非常勤講師
		情報科学Ⅱ	8	櫻井理紗・岸本和昌	全て非常勤講師
	人間と生活 社会の理解	生命倫理	15	伊東秀文・王財源・ 西理宏・近藤哲哉・ 木村研一・文野住文・ 鍵弥朋子・備前宏紀	学長・教授（兼任）・ 教授（兼任）・教授（兼任）・ 教授（兼任）・准教授（専任）・ 講師（兼任）・講師（兼任）
		日本国憲法 (法の基礎知識)	15	池田裕明	非常勤講師
		心理学	15	狩野真理	講師（兼任）
		スポーツと健康	15	相澤慎太	講師（兼任）
		生涯スポーツⅠ	15	相澤慎太・渡邊俊哉	講師（兼任）・非常勤講師
		生涯スポーツⅡ	15	相澤慎太・渡邊俊哉	講師（兼任）・非常勤講師
		社会学	15	木村弘之	非常勤講師
		社会福祉論	15	駒井博志	非常勤講師
		教育学	15	北山敏和	非常勤講師
		英語表現法Ⅰ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		英語表現法Ⅱ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		英語表現法Ⅲ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		英語表現法Ⅳ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		医療英語	15	谷埜予士次・東藤真理奈	教授・講師（全て専任）
		国語表現法	15	南山かおり	非常勤講師
		コミュニケーション学	15	狩野真理	講師（兼任）
		手話	15	滝元悦子	非常勤講師
		人体の構造Ⅰ	15	深澤洋滋	教授（専任）
		人体の構造Ⅱ	15	深澤洋滋	教授（専任）
		人体の構造演習	15	深澤洋滋	教授（専任）
		人体の機能Ⅰ	15	樫葉均	教授（兼任）

専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の機能Ⅱ	15	樫葉均	教授（兼任）
		人体の機能演習	15	樫葉均・大島稔	教授・教授（全て兼任）
		基礎運動学Ⅰ	15	東藤真理奈	講師（専任）
		基礎運動学Ⅱ	15	谷埜予士次	教授（専任）
		基礎運動学演習	15	谷埜予士次・東藤真理奈	教授・講師（全て専任）
		人間発達学	15	大歳太郎	教授（兼任）
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	15	武田時昌	非常勤講師
		衛生・公衆衛生学Ⅰ	15	相羽洋子	非常勤講師
		衛生・公衆衛生学Ⅱ	15	松本健治	非常勤講師
		病因・病態学Ⅰ	15	伊藤俊治	教授（兼任）
		病因・病態学Ⅱ	15	伊藤俊治・鍵弥朋子	教授・講師（全て兼任）
		臨床疾患学（内科）	15	河本修	准教授（専任）
		臨床疾患学（外科）	15	喜馬通博	非常勤講師
		臨床内科学各論	15	河本修	准教授（専任）
		臨床外科学各論	15	喜馬通博・熊野公東・岩橋秀明	全て非常勤講師
		整形外科学	15	吉田隆紀・中塚映政	教授（兼任）・非常勤講師
		神経内科学	15	若山育郎・河本修	非常勤講師・准教授（専任）
		臨床心理学概論	15	吉田弘美	非常勤講師
		精神医学	15	郭哲次	教授（兼任）
		画像解析学概論	8	河本修	准教授（専任）
		加齢医学	15	河本純子	教授（兼任）
		薬理学の基礎	8	深澤洋滋	教授（専任）
		障がいとスポーツ	15	中尾哲也	准教授（専任）
		免疫学	15	青野由紀	非常勤講師
		栄養学の基礎	8	高田かず	非常勤講師
		医療統計	15	山本博司・井尻朋人	全て非常勤講師
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	谷埜予士次・米田浩久・吉田隆紀・大歳太郎・鬼形周恵子・高木綾一	教授（専任）・教授（専任）・教授（専任）・助教（専任）・教授（兼任）・非常勤講師
		保健医療福祉概論	15	米田浩久	教授（専任）
	基礎理学療法学	理学療法概論	15	文野住文	准教授（専任）
		運動療法概論	15	谷埜予士次	教授（専任）
		運動療法概論演習	15	谷埜予士次	教授（専任）
		日常生活活動学	15	米田浩久・東藤真理奈	教授・講師（全て専任）
		動作分析学	15	東藤真理奈・福本悠樹	講師・講師（全て専任）
		感染管理学	8	本田陽亮・高木綾一	助教（専任）・非常勤講師
		安全管理学	8	本田陽亮・高木綾一・井尻朋人	助教（専任）・非常勤講師・非常勤講師
		理学療法導入セミナー	15	米田浩久・福本悠樹・本田陽亮	教授・講師・助教（全て専任）
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	谷埜予士次・高木綾一・三原修・中村昌司・守安久尚	教授（専任）・非常勤講師・非常勤講師・非常勤講師・非常勤講師
	理学療法評価学	評価学総論	15	文野住文・東藤真理奈・鬼形周恵子	准教授・講師・助教（全て専任）
		評価学演習Ⅰ	15	文野住文・福本悠樹・鬼形周恵子	准教授・講師・助教（全て専任）
		評価学演習Ⅱ	15	文野住文・谷埜予士次・福本悠樹・本田陽亮	准教授・教授・講師・助教（全て専任）
		検査測定学	15	文野住文・谷埜予士次・本田陽亮	准教授・教授・助教（全て専任）
		検査測定学Ⅱ	15	吉田隆紀・谷埜予士次・文野住文	教授・教授・准教授（全て専任）
		国際リハビリテーション学	8	谷埜予士次・吉田隆紀・大歳太郎・文野住文	教授（専任）・教授（専任）・教授（兼任）・准教授（専任）
		理学療法研究法	45	谷埜予士次・他	全て専任

専門	理学療法治療学	骨関節疾患理学療法学Ⅰ	30	吉田隆紀	教授（専任）
		骨関節疾患理学療法学Ⅱ	30	吉田隆紀	教授（専任）
		脳血管障害理学療法学Ⅰ	30	福本悠樹・文野住文	講師・准教授（全て専任）
		脳血管障害理学療法学Ⅱ	30	鈴木俊明	教授（専任）
		神経筋疾患理学療法学Ⅰ	15	福本悠樹	講師（専任）
		神経筋疾患理学療法学Ⅱ	15	福本悠樹	講師（専任）
		小児疾患理学療法学Ⅰ	15	大沼俊博・池田匠・徳山義之	全て非常勤講師
		小児疾患理学療法学Ⅱ	15	石丸庸介・吉田琢哉・馬場先俊仁・渡邊裕文	全て非常勤講師
		脊髄損傷理学療法学	15	吉田隆紀・東藤真理奈	教授・講師（全て専任）
		老人理学療法学	15	米田浩久	教授（専任）
		内部障害理学療法学	15	本田陽亮・高木綾一	助教（専任）・非常勤講師
		義肢装具学	15	鬼形周恵子・中尾哲也	助教・准教授（全て専任）
		義肢装具学演習	15	鬼形周恵子・中尾哲也	助教・准教授（全て専任）
		物理療法学	15	鬼形周恵子・吉田隆紀	助教・教授（全て専任）
		物理療法学演習	15	鬼形周恵子・中尾哲也	助教・准教授（全て専任）
		総合理学療法学	15	文野住文・鬼形周恵子・三原修・中村昌司	准教授（専任）・助教（専任）・非常勤講師・非常勤講師
		東洋医学概論	15	谷万喜子	教授（兼任）
		東洋医学と理学療法特論	15	吉田隆紀・鈴木俊明・谷万喜子・中尾哲也・東藤真理奈・鬼形周恵子	教授（専任）・教授（専任）・教授（兼任）・准教授（専任）・講師（専任）・助教（専任）
		精神疾患理学療法特論	15	米田浩久	教授（専任）
		神経難病理学療法特論	15	福本悠樹・鈴木俊明・河本修・後藤淳	講師（専任）・教授（専任）・准教授（専任）・非常勤講師
		スポーツ理学療法特論	15	吉田隆紀・谷埜予士次・中尾哲也・三浦雄一郎	教授（専任）・教授（専任）・准教授（専任）・非常勤講師
	地域理学療法学	地域理学療法学総論	15	米田浩久	教授（専任）
		地域理学療法学各論	30	米田浩久・守安久尚・田中健司	教授（専任）・非常勤講師・非常勤講師
	臨床実習	理学療法評価実習	140	谷埜予士次・他	教授・他（全て専任）
		理学療法臨床実習Ⅰ	120	谷埜予士次・他	教授・他（全て専任）
		理学療法臨床実習Ⅱ	140	谷埜予士次・他	教授・他（全て専任）

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
☐	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
☐	シラバスの記載が十分ではない。	2
☐	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
☐	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
☐	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
☐	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習 (理学療法士の役割及び業務の見学) ※評価学演習Ⅱの一環として実施	2年次後期	理学療法概論	1年次前期
		リハビリテーション概論	1年次前期
		保健医療福祉概論	1年次後期
		理学療法導入セミナー	1年次後期
		評価学総論	1年次後期
		検査測定学	2年次前期
		評価学演習Ⅰ	2年次前期
		評価学演習Ⅱ	2年次後期
		理学療法導入セミナー	1年次後期
		評価学総論	1年次後期
		検査測定学	2年次前期
		評価学演習Ⅰ	2年次前期
		評価学演習Ⅱ	2年次後期

理学療法評価実習 (問診・情報収集、動作分析、検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出までの理学療法評価過程を実践)	3年次後期	動作分析学	2年次後期
		骨関節疾患理学療法学Ⅰ	2年次後期
		脳血管障害理学療法学Ⅰ	2年次後期
		検査測定学Ⅱ	3年次前期
		骨関節疾患理学療法学Ⅱ	3年次前期
		脳血管障害理学療法学Ⅱ	3年次前期
		神経筋疾患理学療法学Ⅰ	3年次前期
理学療法臨床実習Ⅰ (問診・情報収集、動作分析、検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出、治療プログラムの作成から治療までの理学療法過程を実践)	4年次前期	理学療法導入セミナー	1年次後期
		評価学総論	1年次後期
		検査測定学	2年次前期
		評価学演習Ⅰ	2年次前期
		運動療法概論	2年次前期
		評価学演習Ⅱ	2年次後期
		動作分析学	2年次後期
		運動療法概論演習	2年次後期
		骨関節疾患理学療法学Ⅰ	2年次後期
		脳血管障害理学療法学Ⅰ	2年次後期
		検査測定学Ⅱ	3年次前期
		骨関節疾患理学療法学Ⅱ	3年次前期
		脳血管障害理学療法学Ⅱ	3年次前期
		神経筋疾患理学療法学Ⅰ	3年次前期
理学療法臨床実習Ⅱ (問診・情報収集、動作分析、検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出、治療プログラムの作成から治療、治療の効果判定までの理学療法過程を実践)	4年次前期	神経筋疾患理学療法学Ⅱ	3年次後期
		総合理学療法学	3年次後期
		理学療法導入セミナー	1年次後期
		評価学総論	1年次後期
		検査測定学	2年次前期
		評価学演習Ⅰ	2年次前期
		運動療法概論	2年次前期
		評価学演習Ⅱ	2年次後期
		動作分析学	2年次後期
		運動療法概論演習	2年次後期
		骨関節疾患理学療法学Ⅰ	2年次後期
		脳血管障害理学療法学Ⅰ	2年次後期
		検査測定学Ⅱ	3年次前期
		骨関節疾患理学療法学Ⅱ	3年次前期
		脳血管障害理学療法学Ⅱ	3年次前期
		神経筋疾患理学療法学Ⅰ	3年次前期
		神経筋疾患理学療法学Ⅱ	3年次後期

		総合理学療法学	3年次後期
通所リハビリテーション及び訪問リハビリテーションの見学実習 (通所または訪問リハビリテーションにおける理学療法業務の見学) ※理学療法評価実習及び理学療法臨床実習 Ⅰ・Ⅱのいずれかで1単位以上実施	3年次後期 4年次前期	リハビリテーション概論	1年次前期
		保健医療福祉概論	1年次後期
		老人理学療法学	3年次前期
		地域理学療法学総論	3年次前期

【自己評価3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分でない。	2
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
☐	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能していない。	2
☐	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	谷埜予士次（伊東秀文）
組織の開催頻度	令和7(2025)年度3回開催
組織の取り組み内容	本学の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検し、評価する。具体的には、各種委員会や学内各部署が推進する中期計画及びアクションプランの進捗状況に関する中間及び期末における点検・評価を実施している。 また、本学の専任教員は当該年度における自己の教育研究活動を「教育」「研究」「大学運営」「社会貢献」「診療」の5領域に分けて毎年度末に点検・評価し、その状況を「教員活動に係る自己評価調査票」に入力して次年度の改善につなげる取り組みを行っている。
自己点検・評価結果の公表	自己点検・評価活動の内容は、毎年度、自己評価書を自主的に作成して大学ホームページで公表している。令和8(2026)年度には令和7(2025)年度の自己点検・評価活動を対象とする自己評価書を作成して公表している。また、各教員の研究業績に関しては、大学ホームページの教員紹介欄にて公表している。

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	理学療法学科会議・教務推進委員会
	委員構成等	(理学療法学科会議) 教授及び准教授・教務課職員・その他学科長が必要と求めた者 (教務推進委員会) 学部長・教務部長・学科長・総合教育科目担当教員2名以上・大学教学部長・教務課長・その他学長が必要と認めた者
	改善の仕組みの実際	シラバス作成マニュアルを全教員へ配布し、それに基づいて各教員が記載内容の改善に取り組むよう努めている。また、各教員が作成したシラバスを学科長及び副学科長が点検し、必要に応じて改善（修正）を行っている。更に最終的な確認として学部長、教務部長、教務課が点検した上で学長の点検を受けている。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員会は、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検・評価し、その結果に基づき次年度の教育研究活動を実施している。公益財団法人日本高等教育評価機構及び一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受けており、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価については、令和3(2021)年度に受審した評価結果をホームページで公開している。さらに令和8(2026)年度にも受審予定である。第三者評価でいただいたご意見は、学科会議で検討し改善に努める。